

たどつのもかし

Vol. 20 H31.1.16 発行

『多度津藩陣屋跡の遺物が発掘されました!!』

多度津町は江戸時代に多度津藩と呼ばれていました。京極と鶴殿様が住んでいて、現在の大通り、家中あたりが「多度津藩陣屋」と呼ばれ、藩内の政治を執り行っていました。特に現在のJR多度津工場のあたりは御殿と呼ばれる殿様の居住空間でした。

しかし明治時代に廃藩置県が行われ、多度津藩はなくなり、藩に関わる施設は次々に取り壊され、現在で藩の米倉、蓮堀の石垣の一部、家中の武家屋敷一軒と、家老屋敷の門の基礎が残るのみとなっています。今回現在の建築物が撤去されるのにあわせて、遺構や遺物包含の状況を確認する調査を行いました。

調査場所は多度津藩陣屋の御殿や新御殿の南側、練武場と藩校

「自明館」の西側、想定される武器庫の東側に位置します。この場所は現存する絵図上に施設名が書かれていないため、どのような施設があったの



多度津藩陣屋配置図と調査位置図

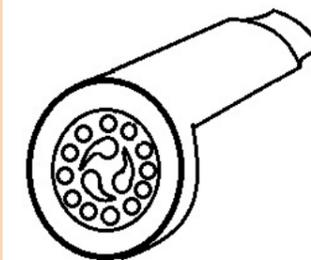
か不明な場所です。

調査の結果、江戸時代の終りころの柱穴や溝が見つかりました。また出土品として素焼きの土器、陶磁器、瓦などが出土しました。

さらに瓦の中で「軒丸瓦」と呼ばれる物があり、その中には多度津藩京極家の「隅立て四つ目紋」を簡略化した菱形のデザインが施された特殊な瓦も出土しました。この瓦に関しては多度津藩陣屋の関連施設に使われたものである可能性が高いことから、今回の瓦などの出土から、少なくとも



掘削状況

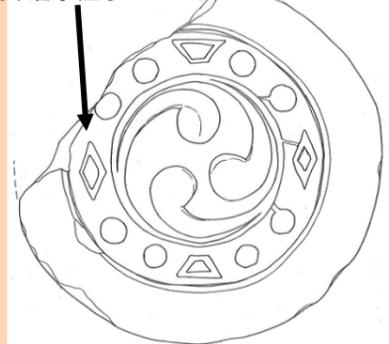


軒丸瓦

も調査対象地は多度津藩

陣屋があった頃に藩に直接的に関わる施設があったのではないかと考えられます。

多度津藩京極家のマーク



出土した特殊な瓦



出土遺物